

第1回 コールドチェーン物流サービス規格（JSA-S1004）に関する普及検討委員会  
議事概要

**1 日時**

令和2年11月5日（木）14:00～15:30

**2 場所**

AP虎ノ門 11階B会議室

**3. 議事要旨**

(1) 冒頭挨拶

事務局を代表して谷合国土交通省大臣官房参事官（国際物流）より冒頭挨拶を行った。

(2) 座長の選任

森委員が座長に選任された。

(3) 本事業の趣旨・進め方について

事務局より「本事業の趣旨・進め方」について説明を行った。

(4) 質疑応答

委員からは、主に以下のような発言があった。

【普及方策について】

- 現地物流事業者のコールドチェーンに対する意識を変えるためには、規格自体にある程度拘束力があり、これを取得しないとビジネス上不利になるといった環境を作ることが非常に重要である。
- 現地の事業者はたとえ良いものであっても値段が高ければ使わないので、例えば政府による補助など、コストを抑えつつ品質を高められるような方策が必要ではないか。
- 国別のアクションプランを作成し、各国に対し規格の普及を働きかけていく上で、規格作成のプロセスを管理する省庁よりも、規格化を申し出る主体を各国ごとに把握し、その主体に対して働きかけることが重要ではないか。
- 現地の物流事業者は、運輸担当省庁の動向を意識するので、運輸担当省庁に働きかけることも重要ではないか。
- 東南アジアには必ずキーとなる業界団体があるので、時間はかかるかもしれないが、そういった業界団体にアピールすることも必要ではないか。
- 規格自体の認知度を向上させていくことも重要な視点であり、たとえば、より知名度のあるISO化を図っていくことも検討すべきではないか。
- 規格自体の普及も重要であるが、消費者や荷主への意識啓発も大事な視点ではないか。

【本事業の目的について】

- 普及を目指す上では国家規格化は本事業の目的ではなくあくまでひとつの手段にすぎないのではないかと。いかに規格を使ってもらえるかを検討することが重要ではないか。また、JSA-

S1004 は日本の国家規格となっていないので、説得力を持たせる上では、JIS 規格化するといった検討も併せて必要なのではないかと。

- まず日本として目指す ASEAN におけるコールドチェーン物流の姿があって、それを実現するためにどのくらい、どのような形で JSA-S1004 を普及させるのが望ましいのかというのがあって、そのために必要なことは何かということ整理した上でやっていくことが重要ではないかと。

#### 【その他】

- JSA-S1004 は現地における国内物流が対象であるが、食品の国際輸送という観点では、現地での通関時の取り扱いが良くなく、品質が落ちることが少なくないため、そのあたりも考慮に入れて検討していく必要があるのではないかと。
- 日本から ASEAN に輸出される農林水産品はまだそこまでのボリュームがあるわけではないが、戦略を検討する上で、現地の国内輸送に焦点を当てるのか、日本からの輸送も考慮に入れるのか、整理する必要はあるのではないかと。

#### 【今後の進め方】

- 次回検討委員会は令和3年1月21日（木）に開催し、普及戦略及びアクションプランの案について議論予定。

以上